



読字 原田 鏡

No. 671

2012/6/5

# 日中友好新聞

発行所  
日本中国友好協会  
〒110-0005 東京都千代田区千代田1-1-1  
TEL:03-41-18073(代)

日中友好協会  
岡山支部  
〒710-8256  
岡山県岡山市東区3-8-30 514  
TEL:086(272)-3016  
郵便番号1100  
01250-04-3835

日中友好協会  
倉敷支部  
〒713-8911  
倉敷市遊島中央1-8-4 (宮地方)  
TEL/FAX:086(446)-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ  
<http://rizhong.biz/>  
メールアドレス  
rizhong86@hotmail.co.jp

## 配偶者支援の請願署名を早急に取り組もう！

### ― 県内で3000人以上を目標に ―

#### はじめに

日本中国友好協会(日中本部)より、5月15日付で中国「残留孤児」の配偶者の生活支援を求める請願署名」の取り組みについてと題する通達がとどきました。

援法)をさらに一部を改正することを求めています。具体的には、「孤児」本人が亡くなった場合に支援対象とならない配偶者問題」「孤児」本人に対する国民年金の満額支給がなくな

る。)を解決するために 国会での法律の改正」が必要となります。そのためこの署名活動を通して、国民世論を喚起していくことが重要です。

50筆、また日本語教室の講師などからも署名が集まり、現在200筆が集まっています。日中岡山は5月23日の理事会で、各理事は最低10筆以上集めること、三役を中心に各団体を回り署名を要請すること、さらに、7月7日の盧溝橋事件75周年街頭宣伝に合わせ署名活動を行うなど、目標達成に向けて奮闘することを決めました。5月28日には、竹内理事長と小林事務局長で、市職労、自治労連、県労会議、パブリック法律事務所などを回りました。

「不再戦の一環として！」  
今後は 配偶者の話を聞く会」など中国帰国者との交流

会を開催し、今春NHKで放映された「開拓者たち」が伝えた歴史の事実」と開拓団関係者の生々しい実情を聞くことを大切にしていきたい。  
このことは、日中不再戦(日中友好)をかかげる日中岡山支部の使命であると思っています。

この署名は、2007年に議員立法で成立した「中国残留邦人等の円滑な帰国の促進と帰国後の自立支援に関する法律」の一部を改正する法律(新支

署名の主体は、日中本部も加入している「中国 残留孤児」の人間性の回復を求める市民連絡会」で、目標を十万人以上としています。

日中本部からの要請数は岡山支部は2090人・倉敷支部は880人です。これを受けて岡山県での目標を3000人としたいと思います。

秋の国交回復  
40周年を山場に！  
尊厳を回復する会」は、署名の集約について、日中本部の情報などをもとに、次のように決めました。

日中友好をより進めるためには、中国の歴史・文化について学ぶことが大切だと思います。その立場で、昨年の辛亥革命100年記念・今年の日中国交回復40年にあたり、日中友好倉敷支部では、神戸の孫文記念館や孫文と親交のあった岡山の大養木堂記念館を見学するなど、学習をしてきました。

命遺跡の出来るだけ近くにという意図を持って建設され、西側に約70・000㎡の中山公園、周囲には軍官学校、烈士墓、長州砲台、金花古廟、など中国近代革命の遺跡26箇所あり、観光事業や都市建設、経済建設とも深く関連されています。観光スポットの多い観光ルートとなっています。



「配偶者支援」の署名を訴える則武弁護士

#### 「中国帰国者の尊厳を回復する

#### 岡山の会」取り組み進む。

開始しました。

県下では5月13日の尊厳を回復する会」の総会での話し合いをもとに署名用紙1000枚を印刷し、弁護団(150枚)、元原告団(200枚)、日中新聞おかやまに同封(300枚)など取り組みを

7月上旬に予定されている、厚生労働大臣と元原告団、弁護団との面談に合わせて集約する。

このたびは、昨年10月、オープンした 広州辛亥革命記念館を訪れ、辛亥革命を支援した日本人と100年前の中国と日本について勉強しました。(5月13日)

関係者によると、この施設のある長州島は面積約132・000㎡で、辛亥革命や孫文の革

井上さん・原さん(日中岡山の監査)は、町内を回り約60筆、小林(日中岡山の事務局長)さんは、常時署名用紙をもち歩き各種会合でお願いし、約

第二次集約(秋の国交回復40周年)  
9月29日の日中国交回復40周年に合わせて、中国の温家宝首相の来日が予定されており、日中友好の気運の高まりに合

開係者によると、この施設のある長州島は面積約132・000㎡で、辛亥革命や孫文の革



中国語で書かれた倉敷市の観光パンフレットを記念館館長に手渡す大本よし子さん

# 日本と中国の国際交流〜餃子を囲みながら〜

谷川浩文

5月20日(日)、倉敷健康プラザにて中国人留学生6名を迎え、語らいながら餃子を作った。日本では焼き餃子が一般



孫文と犬養木堂について話す栗本理事

的であるが、水餃子もなかなか美味であった。どういう訳か参加者の日本人から「中国のどちらから来られたの？」と尋ねられたり、留学生と勘違いされ感想を求められたりして可笑しかった。

午後の学習会では日中の理事から孫文と犬養木堂についての言及があった。昨年は辛亥革命から丁度百周年ということまでジャッキーチェン主演の「1911辛亥革命」という映画が公開された。岡山は犬養木堂を始め日中友好の礎を築いた内山完造や岡崎嘉平太など多くの諸先生方を輩出していることは

以前から知っていたが、犬養木堂と交流があった孫文についても知りたいと思い、これを機に映画も見ようと思った。

倉敷市国際課からは鎮江市との国際交流の報告があった。両国の小学校間の交流も活発で、幼いころからの交流促進は手段であると感じた。日中友好協会も行政を牽引するぐらいのイニシアチブを執って行くべきだと思つた。



留学生と餃子作り

本は環境が良い。中国には部活がない。塾もない。等々いろいろ興味深い話が聞けて大きな収穫になった。

90年以後産まれた中国人を90后(ジウリンホウ)と言うが、彼らの中には日本に対して好意的な哈日族(ハーリーズ)も増えていることから、本当に心から仲良くなれる日が来るのもそんなに先のことではないような気がする。

## 広州市人民政府外事弁公室よりメール

大本よし子さんのブログより

先の倉敷・岡山日中友好協会の「広州辛亥革命記念館」訪問にあたり、私たちがお土産として持参しました資料に対する感謝のメールが、広州市人民政府外事弁公室より届きました。(南京中北友好国際旅行社曹陽氏経由)

私たちが、お土産として持参したのは、岩波文庫の「三民主義」同じく岩波文庫の「孫文革命文集」の3冊の本です。

≪三民主義≫

お礼のメールには「ご贈与の貴重な資料はすでに関係部面に転送し、中国語への翻訳も着手されました。」とし「これからお互いに交流がきっかけられ、ご都合の良いときに再度ご来訪を歓迎いたします。我々もチャンスがあれば倉敷市と岡山市へお訪ねいたしたいと思います。」とあります。(写真は訪問団を代表して挨拶をする栗本泰治日中友好倉敷支部理事長)

なおこの「広州辛亥革命記念館」を日本から訪れたのは、我が倉敷・岡山日中友好協会が2番目のことです。また私が持参しました中国語版の倉敷市の観光パンフも大変喜ばれました。メールの最後には「今後双方の努力で日中両国間の友誼をより一層深めようとお祈り申し上げます。」とありました。

日中国交回復40周年にふさわし意義ある友好の旅でした。

辛亥革命記念館訪問

日中友好倉敷・岡山支部



広州市中山(孫文)記念堂にて

## ニホン人は、なぜ、ニホン語をおしえることができるのか? ⑬

竹内和夫

〈 討論 2 〉

A.: この前の活用表で、ウで終る5段動詞も不規則みただけど??

B.: たとえば?

A.: 「買う」、「しまう」、「従う」、「歌う」、「行なう」、「言う」、など、たくさんあるけど、否定の形が「買わない」、「歌わない」.....のように「ワ」が出てくるのがおかしい。《なるほど!》



C.: これらは完全に規則動詞で、完了形は全部「言った」のようになるのに、なぜ「ワ」が出てくるのかな?

B.: 5段で、ウのほかの音で終るのは?

A.: そりゃあ、たくさんあるさ。「書く」、「読む」、「貸す」、「立つ」、「飛ぶ」、「取る」.....

B.: これらは、まえに発見したように、完了形で「書いた」、「読んだ」、「立った」のように見事なルールにあてはまるが、「ワ」は出てこない。問題は否定形かな?

C.: むかし、お母さんが「思ひます」、「思はない」とか「思ふとほりに」とか変なカナを書いて、「なぜ?」って聞いたけど、わかんなかったんだ。関係ない? 《おおありだよ》

C.: ほんと? ぼくの疑問あがとけるかもね。

A.: そういえば、『国語辞典』の見出しに、「思う」の下にオモフと小さい字で書いてあるのがあったけど、旧仮名遣い(歴史的仮名遣い)というそうだ。《君の辞典ではどう?》

B.: すると、むかしは、「買ふ、しまふ、もらふ、従ふ、歌ふ、行なふ、言ふ.....」といていたんですか? 《平安時代にね。京都で》

つづく



次回の新聞送付作業は6月11(月)午後1時半、民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

稲葉 小竹内和 竹内和 坪井三垣